

事例No 1

「DXで未来を拓く はじめの一步！」

事業所概要

地域: 札幌市

介護サービスの種類: 訪問介護

事業開始年月: 2008年2月

従業員数: 58名(うち正社員23名)(R7.3現在)

支援に至る背景と課題

* 人手不足や業務の煩雑化が課題となっており、特に以下の問題が顕著である。

- ・管理者の労務管理スキル不足: 労働基準法の基礎理解不足、労務管理の適切な運用の困難さ。
- ・情報共有の課題: 職員間の情報伝達の遅延、役割分担の不明確さ。
- ・経営の不透明性: 収支計画や売上管理が適切に行われておらず、資金繰りの悪化が懸念される。
- ・DX推進の遅れ: ICTツールの導入が限定的で、業務効率化が進んでいない。
- ・人材確保の難しさ: 幹部候補や営業担当の不足による組織の弱体化。



支援内容

(1) DX推進による業務改善

Googleアプリ(スプレッドシート、ドキュメント)の導入を支援し、職員間のリアルタイム情報共有を促進。

ZOOMの活用指導(画面共有、議事録作成、録画機能の活用)を行い、オンライン会議の円滑化を実現。

LINEグループの作成により、施設内の情報伝達の迅速化。

オフィスステーションの導入支援を通じ、給与管理・計算の効率化を推進。
Excel VBAおよび生成AIの活用により、事務作業の自動化を推奨。

(2) 経営管理の最適化

収支管理の改善: 月次決算、資金繰り表、キャッシュフロー管理の強化。
売上向上施策の策定: 利用者稼働率の向上、介護報酬加算の適正活用。

経営計画の策定指導: 短期・中期的な経営計画の作成と運用支援。

組織の役割明確化: 経営者 → 幹部 → 管理者の指示命令系統の整理。

(3) 人材育成と組織改革

管理者研修の実施: 労務管理の基本知識やDX活用方法の指導。

営業戦略の見直し: 高齢者施設の入居促進策の構築。

従業員の意識改革: ICTツールの活用による業務改善意識の醸成。



支援の“成果”

- 情報共有の迅速化:DXツールの活用により、施設内の情報伝達スピードが大幅に向上。
- 業務効率の改善:Googleアプリ、LINE、オフィスステーションの活用により職員の作業負担が軽減。
- 収支管理の精度向上:資金繰りやキャッシュフローの見直しにより、経営の透明性が向上。
- 利用者増加に向けた戦略強化:入居者募集戦略の見直しにより、施設の稼働率向上が期待される。
- 事務作業の負担軽減:給与計算・事務処理の自動化により管理職への業務集中を回避。
- 組織の意思決定の迅速化:幹部職の役割を明確化し指示系統の整理を実施。



支援に対する事業所の感想

- ・「DXツールの導入により、業務負担が大幅に軽減され、効率的な運営が可能となった。」
- ・「外部のモニタリングを受けることで、計画策定や業務改善に対する意識が高まった。」
- ・「収支の見直しや経営戦略の策定支援が非常に有益であった。」
- * 今後は、以下の点を重点的に取り組む。
- ・DX化のさらなる推進による業務の効率化と生産性向上。
- ・管理者育成の強化と組織の意思決定プロセスの改善。
- ・経営計画の継続的な見直しとPDCAサイクルの強化

